くらしは文化 no.68

愛知県豊橋市

豊橋市公会堂

Toyohashi Public Hall

多彩な建築様式を駆使した昭和初期創建の公会堂

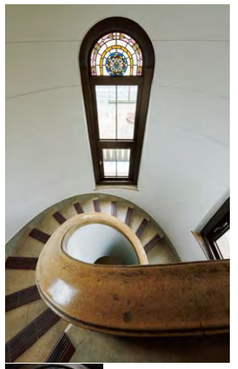
愛知県の豊橋市公会堂は、昭和6(1931)年、中村與資平(よしへい)の設計で豊橋市における初期の鉄筋コンクリート造建築として竣工した。ロマネスクなど多様な様式で飾られたファサードが特徴。昭和20年の豊橋空襲を免れ、今日も活用されている。国登録有形文化財。

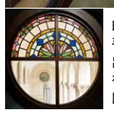
東アジアや日本で活躍した建築家・中村與資平が建設した豊橋市公会堂。竣工90年余を経てなお、風格ある佇まいで人びとを迎える。

来館者を直接、2階へ誘う大階段。こうした大階段を持つ公会堂は少ないといわれる。公会堂の建設は大正デモクラシーの時代に集会所を求める声が上がったことを背景としている。

豊橋市の未来をイメージした羽ばたく鷲のモニュメント。タイル張りのドームは、イスラム文化を思わせるとする説やスペイン風とする見方もある。

中村はこうした柱頭飾りを得意として、他の建築物でも使用している。





曲線が美しい階段。手すりは人造石研ぎ出し仕上げ。ポーチを望む窓にもステンドグラスがある。

来訪者は大階段を上り、列柱をくぐって2階玄関へ。ロマネスクの意匠が目を引く。玄関の左右には切符売場がしつらえてある。

昭和天皇が訪問時に使用した3階特別室。白漆喰の天井は花座、壁との取り合い部分は渦巻き模様の持ち送りで装飾されている。左官技術が光る。

①集会場の座席は当初1,524席もあった(現在は601席)。②手動のつり物機構(綱元)。舞台で使う照明などをつり下げたバトンを綱で上げ下げする。

豊橋市公会堂は、第二次世界大戦まで陸軍の部隊が置かれた吉田城址(現豊橋公園)を背に、市役所や警察署が並ぶ国道沿いで威容を誇っている。竣工当時、路面電車※が公会堂正面に向かって伸びる大手通りを走っており、公会堂はランドマークとしても親しまれた。

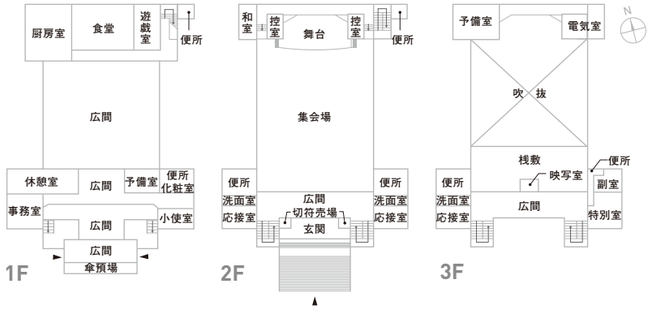
設計者・中村與資平は現在の静岡県浜松市出身。大学卒業後、辰野葛西事務所に入所し、わずか3年程で韓国での銀行建設を任された。その後、独立して帰国すると中村工務所を開いて東京や静岡で銀行や公共建築を多数、手掛けた。公会堂建設もこの時期で、豊橋市制施行25周年にあわせ、昭和6年に竣工している。

建物は、昭和初期の豊橋市ではさきがけとなった鉄筋コンクリート造で、高さ約16m。堂々たる構えのファサードは、5連のアーチとコリント式柱頭飾りがある列柱、ドームと鷲の彫像を頂く2つの階段塔、大階段等で構成されている。大階段が正面から2階へ伸びていることも特徴である。採用された建築様式には諸説あるが、柱上の半円形アーチや軒先に回るロンバルディアバンド、列柱奥の玄関が傘を広げた形の交差ヴォールトの天井であることから、ロマネスク様式がベースといわれている。一方、3階の双子窓はルネサンス様式、幾何学模様のモザイクタイルが貼られた階段塔のドームはビザンチン様式とする指摘もあり、こうした国際色豊かな様式を理解・採用した中村の力量が垣間見える。

豊橋空襲で市街地の約90%が焼失したが、公会堂は被災を免れた。戦中に市役所として機能した他、2階集会場では今日までさまざまな文化活動が行われている。平成13年に大規模な改修が完了。竣工から90年余を経て、さらに将来に向け豊橋市のシンボルとして歴史を紡いでいく。

※豊橋電気軌道株式会社(現豊橋鉄道株式会社)

建設当時の平面図



用語説明

【中村與資平】明治～昭和期に東アジアと日本で活躍した建築家。明治38(1905)年、東京帝国大学建築学科卒業、大正11(1922)年、帰国後に中村工務所開設。

【辰野葛西事務所】明治・大正期の名建築家・辰野金吾が明治36(1903)年に葛西萬治と開設。

【ロンバルディアバンド】イタリアのロンバルディア地方で盛んに使われたロマネスク建築の装飾。小柱列を小アーチで連結した装飾帯を外壁に配置する。

【交差ヴォールト】アーチを基本にした曲面天井(ヴォールト)を直角に交差させた際にできる天井。

【ルネサンス様式】15～17世紀初頭に、イタリアを中心に広くヨーロッパに普及した建築・美術様式。

【ビザンチン様式】4世紀頃から始まった東ローマ帝国(ビザンチン帝国)の建築・装飾様式。

愛知県豊橋市八町通二丁目22番地
協力:豊橋市、特定非営利活動法人 あいちヘリテージ協議会

くらしは文化 バックナンバー